



リスクファクターモデルの 活用方法

ストーマ周囲皮膚障害のリスク因子

リスクファクターモデルの活用方法

リスクファクターモデルは、日頃のストーマケアにおいて個々の患者さんの具体的なニーズを評価するために使用します。これらのリスク因子を把握し、適切な介入をすることで、ストーマ周囲皮膚障害（PSC）による身体的な負担を防ぎ、ストーマを保有する人々の生活を改善することができます。

1

定期的なリスク評価

漏れやストーマ周囲皮膚障害（PSC）を防ぐには、定期的なリスク評価が極めて重要です。手術後の経過年数は関係ありません。

2

リスクファクターモデルを確認する

ストーマ保有者と相談しながら3つのリスク因子カテゴリーの内容を確認し、どの内容がストーマ保有者の身体的ニーズや個人的状況に該当するかについて確認します。

3

ストーマ保有者の個人的なリスクを評価する

リスクファクターモデルを使用して個々の患者さんに関連するリスク評価と、漏れやストーマ周囲皮膚障害（PSC）を防ぐための適切な介入を行います。

リスクファクターモデル

ストーマ周囲皮膚障害（PSC）のリスクを評価します



患者さんの氏名

日付

医療システム

ストーマケアの基本

- 社会復帰に向けたセルフケア指導の確立**
患者に対してストーマサイトマーキング、ストーマ造設位置等の説明、術後の社会復帰に向けたサポートができていたか。
- 手術内容の説明**
患者がストーマ造設術について理解していたか。
- セルフケア指導**
社会復帰に向けたセルフケア指導がされていたか。
- 社会復帰後の療養生活指導**
ストーマ外来で定期的なフォローアップを行っているか。

ストーマ装具の購入方法／社会保障制度

- 社会保障制度の説明**
身体障害者手帳の申請が済んでいるか。
- ストーマ装具の購入**
ストーマ装具の購入方法や購入頻度について理解しているか。

ストーマケアに従事する看護師の知識や技術

- ストーマケアの指導**
ストーマケアについて、院内で統一した指導ができていたか。

ストーマ保有者の状況

体形的特徴

- 体形的特徴**
腹壁の状態に応じて適切な装具が選択されているか。
- ストーマのサイズと造設位置**
ストーマの高さが十分あるか、適切な位置に造設されているか。
- 排泄物の性状**
排泄物の性状と量
- 薬物療法**
免疫抑制剤やステロイド剤の服用による副作用、または、放射線治療・化学療法による副作用があるか。
- ADL**
視力や巧緻性の低下、車いすの使用等があるか。

心理的情報

- 自己効力の有無**
セルフケアや新しい生活環境に対する自己効力感があるか。
- 理解力や認知機能の程度**
セルフケアが習得できる理解力や認知機能があるか。

社会的資源

- サポート**
社会復帰後の生活を支えてくれる家族や友人等の有無。
- 生活水準**
生活環境と収入レベル。

ストーマ装具

選択方法

- 体形の確認**
ストーマ装具が体形に適しているか。
- ストーマの形状**
ストーマに合ったホールカットサイズかどうか。
- ストーマ装具の剥離と貼付**
剥離や貼付がしやすい装具かどうか。
- 貼付目安期間**
ストーマ装具の貼付期間が適切か。
- ストーマ装具の種類**
ストーマの種類や排泄物の性状に適しているか。

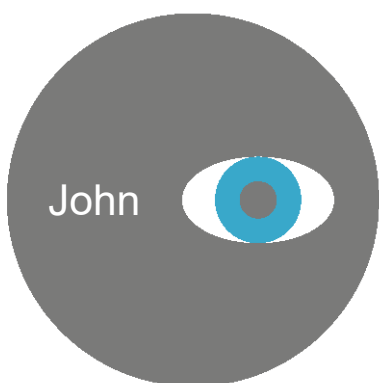
ストーマ装具の特徴

- 皮膚保護剤**
密着性、吸水性、耐久性
- フィルターの性能**
パルーニングを防げるか。

ノート

症例：ジョンさんの場合

これは、日頃のストーマケアにおけるストーマ保有者のリスク評価に、リスクファクターモデルをどのように活用していくかを示しています。リスクファクターモデルを一つの指針として活用することで、ストーマ周囲皮膚障害を防ぐための潜在的な問題点を特定することができます。



ジョンさんのリスク因子

永久的回腸人工肛門を造設

年齢：	41 歳
婚姻歴：	結婚して妻がいる
身体的特徴：	過去 5 カ月間に体重が減少し、痩せている
病歴：	16 歳でクローン病と診断された。3 年前に、結腸の半分と回腸の一部を切除した。4 カ月前、結腸を切除したが、直腸は温存した。
ストーママーキング：	手術前に実施した
ストーマの位置：	マーキングと一致している（ストーマは円形である）
使用している製品：	下部開放型の二品系平面装具（プレカット）。ジョンさんは、瘢痕やしわを補整し、安定した密着性を確保するため、用手成形皮膚保護剤をいくつか使用している。
排泄物の性状：	ブリストル便性状スケールで 7 であり、液体から水様の排泄物
ストーマ用品の入手方法：	ストーマ装具販売店から購入
1 カ月の使用量：	頻回な漏れにより 1 日 1 回交換し、1 カ月に 30 枚ずつ使用している
退院後の状況：	ジョンさんは免疫抑制療法を受けており、主治医の定期的な診察を受けている。ストーマ外来を受診するには自分で連絡しなければならない

ストーマ周囲皮膚障害を防ぐために、一緒に頑張りましょう

ストーマケアは個別性が高く、患者さんの個人的な状況により異なります。多くの因子が患者さんのストーマ周囲皮膚障害（PSC）の発生リスクに影響を及ぼす可能性があります。リスクファクターモデルは、3つのカテゴリーに分けることで、これらのリスクを特定しやすくします。



医療システム

リスク因子には次のようなものがあります。

- 患者がストーマ造設術について理解していたか。
- 社会復帰に向けたセルフケア指導がされていたか。
- 身体障害者手帳の申請が済んでいるか。

ストーマ保有者の状況

リスク因子には次のようなものがあります。

- 腹壁の状態に応じて適切な装具が選択されているか。
- ストーマの高さが十分あるか、適切な位置に造設されているか。
- 免疫抑制剤やステロイド剤の服用による副作用、または、放射線治療・化学療法による副作用があるか。

ストーマ装具

リスク因子には次のようなものがあります。

- ストーマ装具が体形に適しているか。
- 剥離や貼付がしやすい装具かどうか。
- ストーマ装具の貼付期間が適切か。
- ストーマの種類や排泄物の性状に適しているか。

リスクファクターモデルはなぜ作成されたのか？

ストーマを保有する人にとって、ストーマ周囲皮膚障害（PSC）は悪循環を引き起こす可能性があります。一漏れによってストーマ周囲の皮膚に炎症が起き、製品を皮膚に貼付できなくなると、更に漏れを助長させます。このような状態はストーマ周囲皮膚障害を悪化させ、多くのケースでは、患者さんの生活の質を低下させます¹。

このような負のサイクルを断ち切るには、すべてのストーマ保有者のストーマ周囲皮膚障害（PSC）のリスクを個別的に評価することが重要です。リスクファクターモデルは、日頃のストーマケアにおけるストーマ保有者のリスク評価が簡単にできるよう考案されたものです。

リスクファクターモデルはどのようにして作成されたのか？

ストーマ周囲皮膚障害の発生に関連のある危険因子について、詳細な系統的レビューが実施されました。18カ国を代表する各国のCOF*を含む専門家グループが、リスク因子の特定とレビュー、整合性について議論しました。その結果、35カ国におけるストーマケアの専門家から得られた4000を超える回答を土台に、改良デルファイ法によるプロセスを適用し、国際的なコンセンサスを経たリスクファクターモデルが誕生しました。このような取り組みから生まれたリスクファクターモデルは、専門家グループや国際的なCOFからも承認が得られています。

リスクファクターモデルを有効に活用できるのは誰ですか？

リスクファクターモデルは、医療従事者が個々の患者のニーズを評価するために構成されています。結果的に、ストーマを保有するすべての人に対する標準治療の改善に役立ちます。

リスクファクターモデルの利点を得られる患者さんはどのくらいいますか？

- オストミー製品を使用する人の**88%**がストーマ周囲皮膚障害を経験しています²。
- ストーマ保有者からの相談の**10件のうち7件**は、漏れと皮膚障害に関連するものです³。
- ストーマ周囲皮膚障害（PSC）があるストーマ保有者のうち、問題を認識しているのは**半数未満**です。治療を受けているのはわずか**16%**にしか過ぎません⁴。

* Coloplast Ostomy Forum (COF) では世界中のトップレベルの専門家（オストミーケア看護師）が集まって互いに学び合い、それぞれの洞察をコロプラストと共有しています。

1. Rolstad, B. S. et al., PERISTOMAL SKIN COMPLICATIONS: PREVENTION AND MANAGEMENT, Ostomy/Wound Management 2004;50(9):68-77.
2. Ostomy Life Study 2019, Consumer survey, Coloplast, Data on file, PM-10499.
3. Ostomy Life Study 2019, Nurse survey, Coloplast, Data on file, PM-11947.
4. Nybæk, H. et al., Skin Problems in Ostomy Patients: A Case-control Study of Risk Factors, Acta Derm Venereol 2009; 89: 64–67.

オストミーケア/コンチネンスクエア/ワウンド&スキんケア/インターベンショナルウロロジ

Coloplast A/S, Høtveddam 1, 3050 Humlebaek, Denmark.PM-17056

www.coloplast.com コロプラストのロゴは Coloplast A/S の登録商標です。© [2021-12.] 無断転載を禁じます。Coloplast A/S

